

「ヤザシ」雑誌編集長野村浩将氏(左)と、日本列島の各地で1980年代のバブル期を彷彿(ほうふ)とさせるような出来事が相次いでいる。有名ディスコが復活し、リゾート開発も活発。海外の超高級車の売れ行きも

きらびやかな店内のお立ち台で、「ボディコン」の女性が踊る。2017年9月に京都市で、老舗ディスコ「マハラジャ祇園」が約21年ぶりに復活した。「昔に戻ったような気分」。大阪市から来た女性(46)は息を弾ませる。店内は午後11時以降、目立って客数が増え始めた。

リバイバル消費

82年の大阪出店からスタートしたマハラジャは84年には東京・麻布十番エリアにも進出したがバブル崩壊とともに閉店した。その後、別の会社がマハラジャの商標を取得して10年に東京・六本木で再出発し、京都を含む5カ所でフランチャイズ展開している。

18年1~3月の経済成長率は実質の年率換算でマイナス0.6%と、国内景気は低調だ。それでも局所的にはバブル的な雰囲気が出ている。80年代に若者だった層による「リバイバル消費」がひとつの要因。金融緩和が金利を「超低位」に抑え込み、飲食店の開業や不動産開発が容易になってくることも大きい。実際、リゾート開発は

列島 局所バブル?

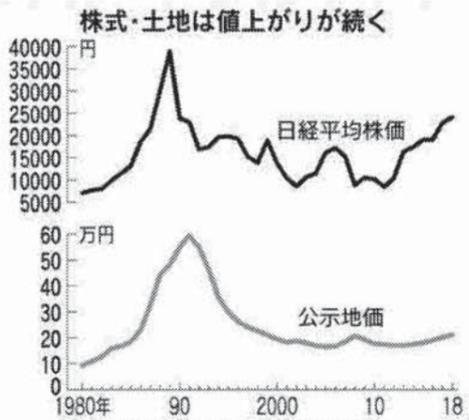
ディスコ復活・スキー場新設



「マハラジャ祇園」で音楽に合わせて踊るを楽しむ女性客ら(京都市東山区)

富裕層に資産効果

活発だ。兵庫県神戸市で1室すべてがスイートルームだ。年12泊なら85万円を更新した。「峰山高原リゾート」も7万円以上、年24泊なら1617万円以上する会員権は3月末までに7割の新設だ。東急不動産は17年夏、同社グループは18年夏、同社として17年ぶりに長野・不動産価格が上昇し、大丸松坂屋百貨店では「資産効果」によって富裕層の消費が刺激されて、宝石、時計といった100万円を超える高価な商品の販売額が前年同期比で6割増えた。特に時計は3・4倍と急拡大。「パレットホテル」がオープンして、全国トップとなった東京・銀座「鳩居堂」前が1平方メートルあたり4032万円と前年比で26%も上昇し、92年(3650万円)という。



(注)日経平均の18年は年初来の高値、公示地価は全国・全用途平均

かつてのバブル経済は、日銀による金融引き締めが遅れが一因となった。今も街角の一部にバブルの香りが漂い始めたが、日銀が大規模な金融緩和をやめる雰囲気はない。企業で働く中間所得層の賃金は株式や土地ほど上がらず、経済の体温と言え物価の伸びが鈍いためだ。副作用に目をつぶりながら、金融緩和を続けざるを得ない状況にある。

最新の物価を映す5月中旬の東京都部部の消費者物価指数は、値動きの激しい生鮮食品とエネルギーを除くと前年同月比0.2%の上昇だった。伸び率は2カ月続けて小さくなり、ほぼ横ばい。ルームエ

賃上げ鈍く、物価伸びず...

アコンなどの耐久財に値下がりが目立つ。高級品の活況と比べると、暮らしに欠かせない商品の値動きは鈍い。日銀は物価が上らない理由として人手不足に對心し、賃金を消費者の「気持ち」に見して人手不足に對心し、賃金を抑える。デフレ経済もいまや20年目となり成人式。インフレをば、無理に値上げする必要も

「高圧経済」恩恵に偏り

知らない人が消費を支える世の中になった。景気回復で企業収益は過去最高になった。2008年のリーマン・ショックや11年の東日本大震災を経験した経営者は賃上げよりも手元資金の確保を優先する。日銀は2%の物価上昇を目標にしている。このため、金融緩和は今後も長く続きそうだが、物価目標にこだわるあまり健全な発展が揺らぐのならば、金融緩和の限界が意識されやすくなる。

と話す。

日銀法の政策理念は「物価の安定を図ることを通じて国民経済の健全な発展に資す